

小国地域 稲作だより

No.3

必達!! 1 等級比率 95% ~中干し編~

H27.6.2

◎北陸地方の 1 ヶ月予報 (5/30~6/29)

新潟地方気象台 5月28日現在

- ・降水量は平年並みまたは少なく、晴れの日が多くなる予報です。
- ・気温、日照時間は平年並み又は高い(多い)予報です

1. 中干しと溝切りについて

こしいぶきも遅れず中干し!



『昨年の小国地域は、中干し開始が遅れたことにより茎数過剰・籾数過剰傾向となっています!』

適期に中干しを行うことで、生育や籾数の過剰を防止することができ、「未熟粒」や「心白粒」が減少し品質が向上します。また、梅雨入り前に中干しに入ることによって、地耐力を確保できます。

「田植え1ヶ月後を目安」

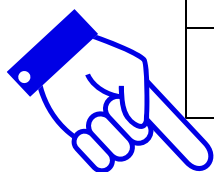
①中干しはどの品種も「田植え1ヶ月後を目安」に開始しましょう。

- ・生育不良ほ場や、茎数が増えにくいほ場でも開始時期は変えず、終了時期を早めましょう。

【田植え日による中干し開始時期の目安】

田植え日 5月10日頃 ⇒ 中干し開始 6月10日~

田植え日 5月15日頃 ⇒ 中干し開始 6月15日~



◎田植え日が5月20日以降のほ場は、6月15日から中干し開始しましょう!

②中干しの強さ、終了時期

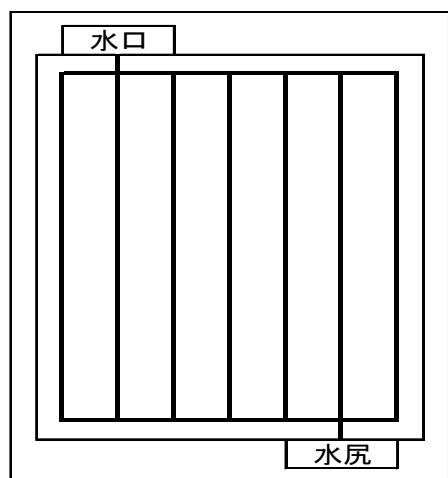
- ・田面に小ヒビが入り(右図参照)、足跡がついて歩ける程度が強さの目安です。ヒビが入り始めたらかん水を開始し、過度の土壤乾燥によって大ヒビが入らないように注意しましょう。
- ・遅くとも出穂1か月前には中干しを終了しましょう。終了時期が遅くなりすぎると、根の伸びが悪くなり出穂後の栄養不足を招きます。



《中干し終了のイメージ》

③溝切りの実施

- ・中干し後の水管理や、緊急時(フェーン現象時のかん水・長雨時の排水など)の水管理を迅速に行うために溝切りを実施しましょう。
- ・10条おきを目安に溝を切り、水口・水尻と溝を連結させて確実に水が流れるようにしましょう



《溝切りのイメージ図》

2. 飽水管理（中干し以降の水管理）

[飽水管理] ・田面の足跡や溝に水がたまっている状態を保つ水管理

[目的] ・心白粒の発生を抑え、玄米を充実させる。




・排水が悪いほ場では、自然に水が減るまで待たず、落水して水の入れ替えを行いましょう。湛水状態が長期間になると根腐れの原因になります。



3. 病虫害防除

- ・斑点米の原因となるカメムシ類の増殖を防ぐため、畦畔の除草を行いましょう。
- ・特別栽培米に取り組んでいる方は、成分回数の上限を超えないように確認をお願いします。

対象	薬剤	使用量(10a)	使用時期	散布時の水位	備考
いもち病 + 紋枯病	イモチエース粒剤	3kg	出穂 20~10 日前 (収穫 35 日前まで)	3~5cm	 <ul style="list-style-type: none"> ・早生品種は発生しやすいので、良く観察し、適期防除を心がける。 ・前年多発生したほ場や生育が過剰な場合は予防防除に努める。
いもち病	オリゼメート粒剤	3~4kg	6 月上~中旬頃 (収穫 14 日前まで)	3~5cm	

(登録状況：H27.5.13 現在)

4. 雑草防除

- ・高温気象では、雑草の生育が早まる可能性があります。ほ場をよく観察し除草剤散布が遅れないようにしましょう。
- ・特別栽培米に取り組まれている方は、成分回数の上限を超えないように確認をお願いします。

薬剤名	10a あたり使用量(散布量)	使用時期	散布時の水位	対象雑草			
				ヒ(葉齢)	アノ類	ホムイ	クグワイ
クリンチャー 1キロ粒剤	1.0kg	移植後 7日~ノビエ 4 葉期 (収穫 30 日前まで)	3~5cm	4~5 まで	×	×	×
	1.5kg	移植後 25日~ノビエ 5 葉期 (収穫 30 日前まで)					
バサグラン粒剤	3~4kg	移植後 15日~50日※ ※対象雑草により異なる (収穫 60 日前まで)	落水か ごく浅水	×	◎ 移植後 15~50日	◎ 移植後 15~50日	◎ 移植後 15~35日
クリンチャーバス ME 液剤	1000ml (70~100l)	移植後 15日~ノビエ 5 葉期 (収穫 50 日前まで)	落水か ごく浅水	5 まで	◎	◎	◎

(登録状況：H27.5.13 現在)

5. 小国中干し指導会のお知らせ

- ・6月10日に中干し指導会を各地域で開催いたします。日時・会場は、別途回覧の『中干し指導会の開催について』を確認いただき、参加ください。

~農薬の安全使用を徹底しましょう~

1. 農薬を使用するときは、農薬使用基準（適用作物、使用量・回数・時期）を厳守すること。
2. 防除前に、器具の洗浄、清掃が十分であるか確認してから使用する。
3. 農薬の散布に当たっては、飛散しないように風向きなどに細心の注意を払う。
4. 農薬の調整時や散布時には、手袋やマスク、長袖などを着用し、薬剤が直接触れないようにする。

【お問い合わせ先】

小国支店 95-2001
 上小国支店 95-3100
 本店 営農指導課 0257-21-2095
 長岡地域普及センター
 小千谷分室 83-0821

柏崎農業協同組合